

企画  
セッション2

## 野外地質観察会参加者の感想および 企画者の意図と討論

利 光 誠 一<sup>1)</sup>

地質標本館では、屋内のいろいろな体験型イベントだけでなく、屋外でのフィールドワークも体験学習の一つとして取り入れています。産総研になってからは2002年度から年に1回ではありますが、一般向けに岩石・鉱物系、層序・古生物系の野外地質観察会を交互に実施してきました。これまでの地質標本館の企画した野外地質観察会について企画側がどのような意図をもって進めてきたか、そして参加者がこれをどのように受け止めてきたかを検証する機会を“子どもと自然学会つくば大会”において得ましたので、この企画セッションにおいて互いに整理してみることにしました。

セッション当日(10月30日)は、企画側として、地質情報研究部門島弧堆積盆研究グループの中島 礼さんが報告し(写真1)、続いて、前日(29日)に開催された野外地質観察会の様子を地質情報研究部門火山活動研究グループの田中美穂さんが写真を交えて報告しました(写真2)。これに応じて、これまで野外地質観察会に参加経験のある小学生2名、中学生1名が感想を述べるといった形でセッションが進行しました。企画

側の意図が十分に伝わっていたと思う反面、対象としていた小学校高学年には少し難しい部分があったことなど反省点も浮き彫りになりました。上記の発表が終了した後の総合討論の時間をあまりとることができませんでしたが、教育現場に直接携わる先生方から、子ども達に地質学的な時間の長さや複数の観察地点の時空的關係を理解させる工夫がより必要であるとの指摘を受けたほか、野外地質観察会の広報の方法や学校現場との連携・普及活動に関する質問もいただきました。今後は今回のセッションでの感想や課題となったこと、およびこれまでのアンケート結果などを踏まえながらよりわかりやすい野外地質観察会を企画していくようにしていきたいと考えています。

以下に、当日のセッションで発表した中島氏の講演と小中学生3名の発表の様子を順に記述していきます。

TOSHIMITSU Seiichi (2006) : Report of Symposium "Intention of planners and impression of participants, on the field excursions of the Geological Museum, GSI" in the Tsukuba Meeting 2005 of the Society of the Child and Nature.

<受付: 2006年1月6日>



写真1 野外地質観察会の企画の意図を報告する中島礼さん。



写真2 前日開催の野外地質観察会の様子の“実況報告”をする田中美穂さん。

1) 産総研 地質情報研究部門

キーワード: 地質標本館, 野外地質観察会, シンポジウム, 企画者, 参加者